

Brief Letter

ブリーフレター 2026 January
79

人と地域と医療を繋ぐ秋本病院の情報誌

特集

患者さんとご家族の 穏やかな時間のために ～緩和ケアと医療用麻薬の話～



千一夜医話 秋本病院理事長・院長 秋本 亮一

●栄養課より/ 「鶏団子と野菜のちゃんこ風スープ」



[救急告示病院] [日本医療機能評価機構認定病院]
消化器内視鏡センター/健診センター/緩和ケアセンター

2026 January

SHOP
散策

ビストロ ラ ポール
Bistrot la Paulée



内装と外観は「パリのビストロ」がテーマ

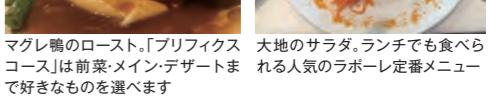
フランス郷土料理が味わえる名店

警固小学校のすぐそばにある「ビストロ ラ ポール」は2009年オープン。「警固は素敵な飲食店が多く、落ち着いた雰囲気。福岡に、パリのビストロの様に気軽に続けるフレンチがあればと思った時、警固がピッタリだと感じた」ことから、この地に店を構えたそう。そのため「こんなお店、パリにあったかも」と思えるお店作りをしたそうです。

昼は人気の「大地のサラダ」と名物「ブランマンジェ」が入った「ランチコース」(2650円)がおすすめ。追加料金はかかりますが、オニオングラタンスープもぜひ!ランチはコースのみですが、ディナーは、ビストロらしい「カステ」や「ポトフ」、仔羊の煮込み「ナヴァラン・ダニヨー」などアラカルトの注文も可。もちろん、旬の食材を取り入れた「スペシャルコース」(7000円)や、シェフお任せの前菜2皿が付く「プリフィクスコース」(5000円)など、多彩なコースも味わっていただきたいです。

料理はお酒を飲む人、飲まない人も一緒に楽しめるよう心がけているそうで、「ワインの紹介や説明は最小限に。お客様ご自身がセレクトしていただけるよう誘導できるメニューにしています」とのこと。

系列店の、ムール貝のオーブン焼きなどが人気の「イタリア料理マンジャーモ」(西鉄グランドホテルBF1)とナポリピッツアの専門店「ピッツェリア ファリーナ」(中央区高砂)もおすすめなので、近くへ行かれた際には立ち寄ってみてください。



★イタリア料理マンジャーモ
住所: 福岡市中央区大名2-6-60
西鉄グランドホテルBF1
電話: 092-715-8855

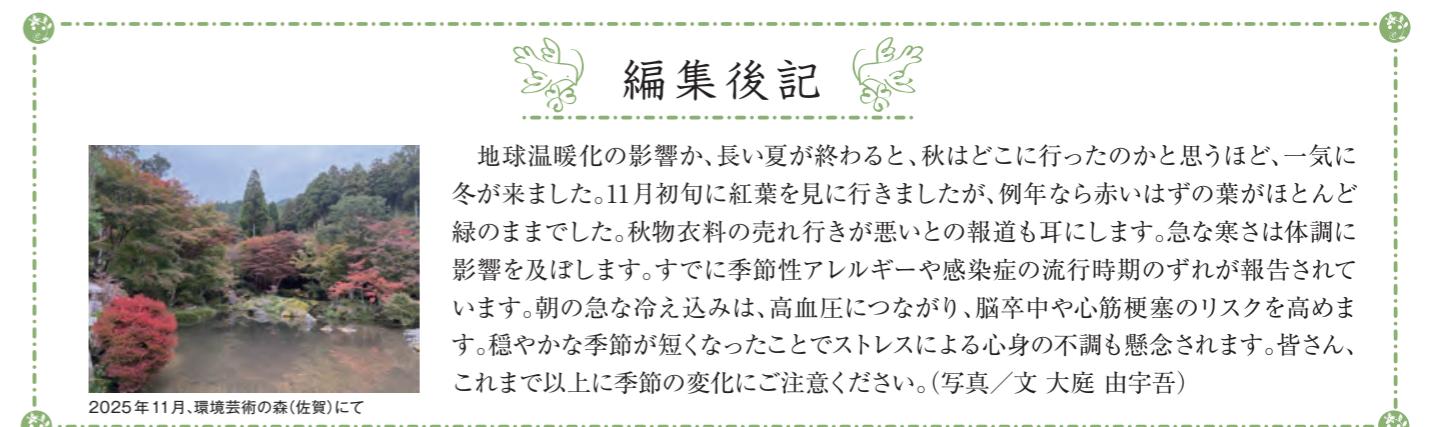
★ピツェリア ファリーナ
住所: 福岡市中央区高砂1-2-19
電話: 092-521-2229

店舗
情報

Bistrot la Paulée



住所: 福岡市中央区警固1-12-1 1F
電話: 092-732-3546
営業時間: ランチ 11:30~15:00(OS 14:30)
ディナー 17:30~23:00(OS 22:00)
定休日: 水曜(不定休あり)



2025年11月、環境芸術の森(佐賀)にて

地球温暖化の影響か、長い夏が終わると、秋はどこに行ったのかと思うほど、一気に冬が来ました。11月初旬に紅葉を見に行きましたが、例年なら赤いはずの葉がほとんど緑のままでした。秋物衣料の売れ行きが悪いとの報道も耳にします。急な寒さは体調に影響を及ぼします。すでに季節性アレルギーや感染症の流行時期のずれが報告されています。朝の急な冷え込みは、高血圧につながり、脳卒中や心筋梗塞のリスクを高めます。穏やかな季節が短くなったことでストレスによる心身の不調も懸念されます。皆さん、これまで以上に季節の変化にご注意ください。(写真/文 大庭 由宇吾)

秋本病院 ブリーフレター No.79 2026年1月発行 発行者/秋本亮一 発行所/医療法人 AGIH 秋本病院 デザイン/紺谷 宏明 編集/矢野 美恵子
Copyright 2026 Akimoto Hospital All rights reserved.

医療法人 AGIH 秋本病院 福岡市中央区警固1-8-3

TEL: 092-771-6361

●診療科目: 外科(消化器外科)・内科・胃腸科・肛門科・整形外科・脳神経外科・麻酔科

●外来診療受付: 平日8:30~12:30/14:00~17:00 土曜8:30~12:00 ●休診日: 日・祝

<http://www.akimoto-hospital.jp/>

秋本病院
の理念

- 専門医療を通じ、地域社会に貢献します。
- 皆さまのご満足と安心のために、医療に関する十分な情報を提供します。
- 質の高い心のこもった医療を続けるために、常に研鑽努力します。



緩和ケアセンターでは、季節の行事なども取り入れ、患者さんに楽しんでいただけています。



TRICK OR TREAT



3. 医療用麻薬の副作用・種類・実際の使い方

医療用麻薬の主な副作用には便秘・吐き気・眠気などがあります。便秘は便を軟らかくする薬や腸の動きを調整する薬を併用することで予防を心がけています。吐き気や眠気は投与初期では多く見られますが、1週間ほどで落ち着くことが多いです。副作用への対策も整えたうえで、安全に使用できるよう支援しています。

3. 医療用麻薬の副作用・種類・実際の使い方

医療用麻薬の主な副作用には便秘・吐き気・眠気などがあります。便秘は便を軟らかくする薬や腸の動きを調整する薬を併用することで予防を心がけています。吐き気や眠気は投与初期では多く見られますが、1週間ほどで落ち着くことがほとんどです。副作用への対策も整えたうえで、安全に使用できるよう支援しています。

4. チーム医療と日常生活での工夫

痛みの管理は医師だけでなく、看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーなど、多職種で連携して行っています。また、薬の使い方の工夫や、体勢・呼吸法など、患者さんご自身やご家族ができる対策もあります。こうした工夫を組み合わせることで、つらさを最小限に抑えることができます。



痛みなどのつらさは我慢する必要はありません。緩和ケアでは、つらさを和らげるることを第一に考え、患者さんご家族がその人らしく穏やかに過ごせる生活を支えています。医療用麻薬は、適切に使用される限り、必要に応じて安全に使用できる手段です。私たち医療チームと一緒に、薬の調整や日常生活の工夫を組み合わせながら、痛みを最小限に抑えていきましょう。まずは「痛みを我慢せずに相談すること」が大切です。痛みなどのつらさは患者さんご本人しか感じることができないのでですから、ぜひ遠慮せずに、症状や気持ちを私たちに教えてください。その一歩が、生活の質の向上や安心した時間を取り戻すきっかけになります。

特集

患者さんとご家族の穏やかな時間のために ～緩和ケアと医療用麻薬の話～

秋本病院には、がん等の患者さんの心身をサポートする緩和ケアセンターがあります。今回は緩和ケアについて、また、当院で行っている痛みを和らげる取り組みについて紹介します。

1. 緩和ケアとは？

WHO（世界保健機関）は緩和ケアについて、次のように説明しています。「緩和ケアとは、生命を脅かす病気直面している患者さんとそのご家族の生活の質（QOL）を向上させることを目的としたアプローチです。身体的・心理社会的・スピリチュアルな痛みや問題を早期に見つけ、正確に評価し、適切にケアすることで、そのつらさを予防し、和らげます」。当院でもこの考え方に基づき、「がん患者さんやご家族が抱えるさまざまな『つらさ』」を和らげる治療を行っています。痛み、吐き気、食欲低下、息苦しさ、だるさといった身体的な不調だけでなく、気分の落ち込みなどにも対応します。医学的な側面に加え、生活や環境も含めた幅広いケアをチームで計画し、実践しています。



2. 痛みと医療用麻薬

緩和ケア科の患者さんが体験されるさまざまな症状の中で、「痛み」は多くの方が抱える大きな「つらさ」のひとつです。痛みの強さや性質に応じてさまざまな痛み止めを用います。その中で医療用麻薬は中等度以上^(*)の痛みで積極的に使用されます。普通の痛み止めはそれ以上増やしても効果が十分得られず、副作用が強く出ることがあるため、投与量に上限があります。しかし、医療用麻薬は投与量を増やすことで、かなり強い痛みにも対応できる優れた特徴があります。

「麻薬」と聞くと怖いイメージがあり、例えば「麻薬中毒になるのではないか」「寿命が短くなるのはないか」と心配される方も少なくあります。しかし、医療用麻薬は、ニュース報道などで目にする違法薬物とは目的も使用法も全く異なり、痛みを和らげるために医師の管理のもとで使われる治療薬です。確かに後述するような副作用があるため対策は必要ですが、必要量を見極めながら慎重に使用することで、中毒を防ぎ、安全に痛みを和らげることができます。使用によって寿命が短くなることや、意識がないことはありません。

*中等度の痛み・がんの痛みの場合、NRS 4以上とされることが多いです。NRSは痛みの強さを表す尺度の一つです。全く痛みがない状態を0、想像しうる最も強い痛みを10として、痛みの強さを患者さんに数値で表してもらう方法です。

ライジングゼファーフクオカの チームドクターとして

Akatsuki JAPANの活躍もあり、
バスケットボールへの注目度がさらに高まっています。
実は、秋本院長は福岡を本拠地とするプロバスケットボールチーム
「ライジングゼファーフクオカ」のチームドクターを務めています。
今回は、チームドクターになったきっかけや
チームとの関わりについて秋本院長に聞いてみました。



▲キャプテンの寒竹隼人選手と

Q. チームドクターとして
どのような事をしているのですか？

主に、シーズン前のメディカルチェック、栄養指導、ドーピング指導及び検査、既往症の管理などです。外傷については産業医科大学の整形外科や親しい整形外科の先生方にバックアップしていただいています。主催試合では、会場ドクターとして選手や観客の救護をし、試合中の脳振盪の判定なども重要な仕事です。チームドクターとして心掛けていることは選手の気持ちを理解し、より良い状態で試合に臨めるようになります。競技を理解できる者として、チーム（フロント）と選手の間に入つて心身のサポートも続けています。

選手の皆さんからも
コメントを
いただきました！



【村上駿斗選手】

秋本先生は、僕たち選手の身体のことを細かいところまで覚えてくださっています。怪我をした時やメディカルチェックの時も、僕以上に僕のことを理解してくださっているように感じます。怪我の経過や手術のことなど丁寧に把握してくださっていて、本当に心強いです。先生の“ライジング愛”の強さをいつも感じています。これからもお身体に気をつけて、引き続きよろしくお願ひします。いつもありがとうございます！



Q. 最後に、チームへ一言
お願いします！

ハラハラ・ドキドキの今シーズンです。こんな良い試合ができるのに、何でそんな負け方するんだろう！プレミア参入は果たせるか！今シーズンはそんな日々を送っています。今のチームは選手の気合はもちろんですが、サポートスタッフが充実して例年以上に全員が燃えています。行くぞプレミア、「福岡一丸」！



1/23(金)・24(土)
vs バンビシャス奈良(照葉積水ハウスアリーナ)
2/8(日)・9(月)
vs 岩手ビッグブルズ(照葉積水ハウスアリーナ)
3/7(土)・8(日)
vs 福井ブローウィンズ(北九州市立総合体育館)

以降の日程・チケットについては公式サイトにて。

【加藤寿一選手】

チームとしてもですが、個人的にも本当にお世話になっています。2年前、試合で指を脱臼した際には、21時半頃終わっても関わらず「早めの処置がいいから」と秋本先生が病院まで連れて行ってくださり、対応していただきました。大事には至らず翌日も出場でき、本当に助かりました。また、妻の体調が悪い時も秋本先生が対応してくださり、本当に助かっています。そういうところからも、僕だけでなく家族も心強さを感じています。



【狩野祐介選手】

秋本先生は話し方や接し方も丁寧で、話を真摯に受け止めて答えてくださるので、「優しい方だな」という印象です。睡眠不足や不眠気味になることがあるのですが、そのことについても「こうしたほうがいいよ」など具体的に丁寧に向き合っていただけるので助かっています。知識や技術はもちろんですが、そういった姿勢からも、人としてとても素晴らしい方だと感じています。こういったドクターがいてくださることは本当に心強いです。



千一院 医話

秋本病院 理事長・院長
秋本 亮一

そんなことが有つてよいのでしょうか？いや、あるはずがない！と思つていませんか。それが現実に起つたつある事態なのです。

最近はメディアもようやく気が付いて來たらしく、時々報道されるようになりました。令和七年の病院の緊急経営調査（日本医師会）によると、令和六年度の病院の医業利益率はマイナス5・4%、経常利益率はマイナス2・5%、公立96・6%、医療法人63・9%でした。

「病院が無くなる!!」

医業費用のうち増加が著しいのは給与費・材料費・委託費で、その他に人材確保のための人材紹介会社への手数料の増加が目立っています。この事態はコロナ禍以来年々悪くなっています。改善されなければ病院そのものの存続が難しくなっています。人口減少が著明でない福岡市内はまだよい方で、人口減少が著しい地域では病院が縮小して合併するなどの事態がすでに現実となっています。

日本の医療保険制度は高度成長時代に確立された制度で、これまで安価で質の良い医療を国民に提供してきました。しかし高齢化と人口減少、医療の高度化・高額化でいまや破綻寸前になっています。今や国民皆で今後の日本の医療を真剣に考える事態となっています。

日本の医療保険制度は高度成長時代に確立された制度で、これまで安価で質の良い医療を国民に提供してきました。しかし高齢化と人口減少、医療の高度化・高額化でいまや破綻寸前になっています。今や国民皆で今後の日本の医療を真剣に考える事態となっています。

以前私は、私に起つた三つの「命の瀬戸際」という小文を書いたことがあつた。ところが、ことし八十八才になつた私は、四つ目の命の瀬戸際がやつて來た。二月のまだ春浅い朝だった。ある出来事に腹を立てて抗議の電話を終えたとんでも頭の中がボカシとなり、体の自由を失つて、ドタンと倒れた。

手や足を動かすとしても体が動かない。手に携帯電話を持っていたのが私の命の瀬戸際だった。119のボタンを押して、やつてきた救急車、レスキューカーに救われて、済生会病院の集中治療室で譲り（せんもう）を見て、何が真実でどれが夢の出来事か判らなくなつた。私の病名は「脳出血」。沢山の救いの手で私はもう一度命をもられた。まだ手足は動かない。言語不明瞭の後遺症を残して二か月の、そして二つの病院を退院した。家に帰ると、一番の気がかりだったベランダの二十鉢ほどの植木たちを見た。ほとんど枯れていた。しかし小さな実を一つ付けたいちじくの木と、つやつやとした子供の葉を光らせた月下美人が生きていた。これ以上にうれしかったのは、乾涸びた土の鉢の中に、植えた見えのない雑草の蘭と藪がらしに、小さな花が咲いていた事だった。

昨年の夏は、太平洋戦争が終わって八年目だった。広島、長崎に原子弹が落とされたのも八十年前だ。私に一つ目の命の瀬戸際がやつてきたのもこの時だった。爆心地までわざか二キロだったが、金毘羅山という小さな山に救われて半壊の家屋の中で怪我だけだった。敗戦後のまだ復興ならずの中、子供たちの間でジフテリアが蔓延った。三つ目は七十二才の時に罹患した悪性リンパ腫だった。手術もなく、当の本人の私はいたって呑氣に延した。焼け残った小学校が避病院と山に救われて、出会事に腹を立てて抗議の電話を終えたとんでも頭の中がボカシとなり、体の自由を失つて、ドタンと倒れた。

山に救われて半壊の家屋の中で怪我だけだった。敗戦後のまだ復興ならずの中、子供たちの間でジフテリアが蔓延った。三つ目は七十二才の時に罹患した悪性リンパ腫だった。手術もなく、当の本人の私はいたって呑氣に延した。焼け残った小学校が避病院と山に救われて、出会事に腹を立てて抗議の電話を終えたとんでも頭の中がボカシとなり、体の自由を失つて、ドタンと倒れた。

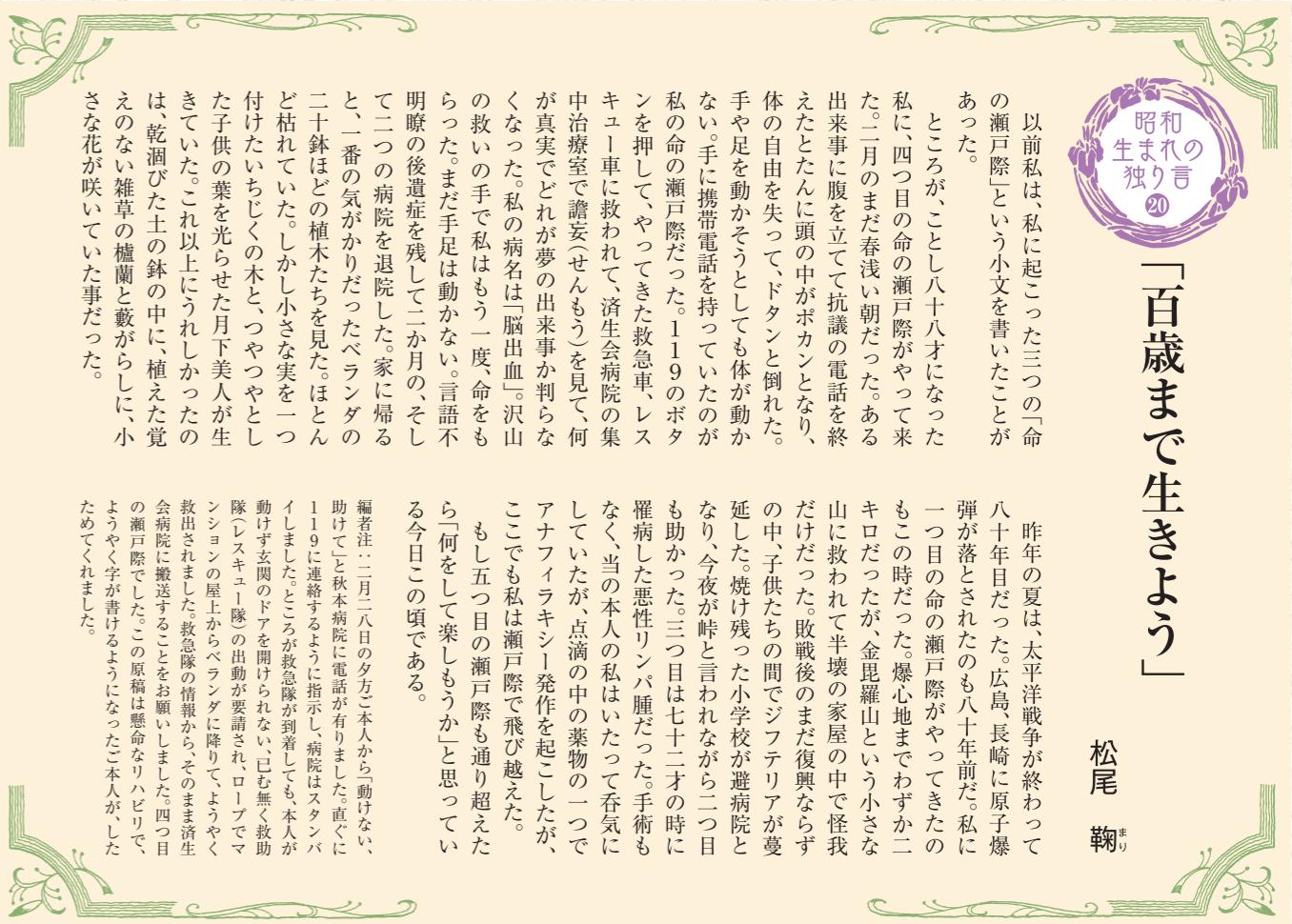
山に救われて半壊の家屋の中で怪我だけだった。敗戦後のまだ復興ならずの中、子供たちの間でジフテリアが蔓延った。三つ目は七十二才の時に罹患した悪性リンパ腫だった。手術もなく、当の本人の私はいたって呑氣に延した。焼け残った小学校が避病院と山に救われて、出会事に腹を立てて抗議の電話を終えたとんでも頭の中がボカシとなり、体の自由を失つて、ドタンと倒れた。

「百歳まで生きよう」



和の言
昭まり
生独
20

松尾
鞠



編者注 二月二八日の夕方ご本人から「動けない」と連絡するように電話が有りました。直ぐに助けに来と秋本病院に連絡するように指示し、病院はスタンバードキュー隊（レスキュー隊）の出動が要請されロープでマシンションの屋上からベランダに降りて、ようやく救助されました。救急隊の情報から、そのまま済生会病院に搬送することをお願いしました。四つ目の瀬戸際で、そこが救急隊が到着しても、本人が動けず玄関のドアを開けられない、已む無く救助隊（レスキュー隊）の出動が要請されロープでマシンションの屋上からベランダに降りて、ようやく救助されました。この原稿は懸命なりハビリで、ようやく字が書けるようになったご本人が、じたばなでくれました。

8/26 (火)



トリアージ研修

10/21 (火)

エマルゴ研修



トリアージ研修では集団災害時におけるトリアジタグの使用方法などについて、
エマルゴ研修では大規模災害時に関する災害図上訓練(トリアージ研修を受講終了者のみ)が行われました。
ともに開催されたのは、福岡市消防本部2階講堂です。今回は、参加した職員3名の感想を紹介します。

災害時に最初に行われるトリアージですが、判断を下せるようになるには常日頃からの訓練が必要だと思いました。トリアージをしたらそこで終わりではなく傷病者の状態は変わっていくので可能な限り繰り返し実施する必要があり、トリアージ後は傷病者が最善の医療を受けるための搬送先を選択、医療を受けその後の経過のたどり方をエマルゴ研修で学びました。またコミュニケーションの重要性や周りの状況をよく見る必要がある事は普段の看護でも共通する事だと改めて感じました。

(看護師 吉川 由貴)

災害現場を想定したトリアージ・エマルゴ訓練に当院より看護師として参加させていただきました。福岡での災害時にどのような流れで救命が行われるかを学び、より多くの方を安心させ救うために自分達がどう動くべきかを考える良い機会となりました。

(看護師 小関 鈴夏)



※この画像はAIで作成しています

11/19 (水) 消防訓練

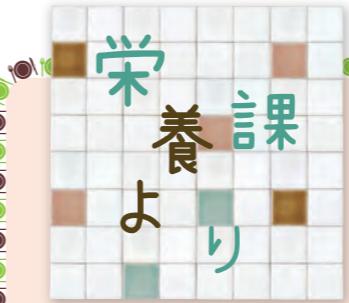
年に2回の実施が義務付けられている消防訓練の一環として、11月19日に模擬避難訓練を行いました。今回は実際の火災発生を想定した形式で、発報から火元の確認、初期消火、通報、そして患者さんの避難誘導まで、一連の流れを時間経過に沿って確認する内容でした。訓練では各部署がそれぞれの役割を再確認し、連携の取り方や動線の確保など、実際の場面で重要なポイントを中心に、振り返りを行いました。

災害時の初動対応は、災害対応において特に重要な場面です。だからこそ、平時の訓練が欠かせないものとなります。今後も定期的な訓練を通じて、万が一の際にも確実な対応が行える体制づくりを進めてまいります。



あけましておめでとうございます。

地域になくてはならない病院として、皆様がいつも笑顔で健やかにお過ごしになられますよう、お年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



今回は、栄養もたっぷりで身体も温まる、冬にぴったりなスープを紹介します。これを食べて、年末年始に疲れた胃腸を元気にしましょう。

管理栄養士
楠 菜菜子



昨年9月1日から管理栄養士として働くことになりました。生まれも育ちも福岡なので、今も地元で働くことができて嬉しいです。趣味は音楽鑑賞と野球観戦です。お休みの日は、カフェ巡りやショッピング、ホットヨガで体を動かすなど活動的に過ごしています。栄養管理等の慣れない業務に日々奮闘しておりますが、1日でも早く業務に慣れ、患者さんを栄養面からサポートしていきたいと思っております。よろしくお願い致します。

鶏団子と野菜のちゃんこ風スープ

秋本病院が相撲とゆかりがあることにちなみ、力士の食事“ちゃんこ”をイメージした、鶏ガラのうま味を効かせた具だくさんのちゃんこ風スープです。肉団子でたんぱく質をしっかり摂ることができるだけでなく、ビーフンの満足感もあり、これだけでメインになります。野菜がたくさん入っているので栄養のバランスも良く、生姜で身体も温まります。香り付けで使った柚子も冬ならではの食材で、うま味を引き立てています。年末年始に食べ過ぎて重たくなってしまった胃腸にもやさしく、この時季にぴったりの一品です。



【栄養価(1人当たり)】 エネルギー：195 kcal たんぱく質：18.4 g 脂質：13.1 g 炭水化物：8.9 g 食塩相当量：1.6 g